

人をつなぐ 未来へつなぐ 市川の教育

教育いちかわ



市川市教育振興基本計画

～次のような目標を掲げています～

子どもの姿 自分や他人を大切にし、社会の中でたくましく生きていくことのできる子どもを育てる

家庭・学校 地域の姿 自らの役割と責任を担いながら、たがいに連携して教育の向上に取り組む家庭・学校・地域を実現する

市川の教育の姿 教育環境の整備を図り、質の高い市川の教育を推進する

■発行
市川市教育委員会
〒272-8501
市川市八幡1-1-1
TEL 334-1111

■企画編集
市川市教育センター
〒272-0015
市川市鬼高1-1-4
TEL 320-3335

学校と地域をつなぐ ～ 学校支援コーディネーターの取組み ～

子どもは地域ぐるみで育てる！

その基盤になると期待されるのが、「地域住民による学校教育活動の支援」（以下「学校支援」）です。学校支援は、子どもたちの健全な育成のみならず、地域づくりや、地域住民の生涯学習にも貢献します。

学校支援コーディネーターって？

学校支援の活性化のため、学校と地域をつなぐ役割を果たすのが「学校支援コーディネーター（以下CN）」です。CNは、学校側のニーズに合った人材を地域から探し、紹介する役割で、今年度は市内20校で活躍しています。その中から、柏井小学校の実践をご紹介します。

「柏井を子どもたちのふるさとに！」

～ 柏井小学校の学校支援～

1 学校支援の具体例（一部）

①サツマイモを育てよう：全校児童が苗を植え、収穫する活動では、地域やPTAが協力して畑

の管理を行っています。

②なしの学習（3年生）：地域の梨農家に協力をしていただき、畑で本物を見て学ぶことができました。雨天時には、農家の方が教室まで出向いて出張授業もしてくれました。

③地域歴史探検（6年生）：班ごとに地域の歴史を探検する活動では、子どもたちのために3日間で延べ21名のボランティアが学習をサポートしてくれました。

④花壇整備：CNの呼びかけで十数名のボランティアが集まりました。地域の方に寄付していただいた苗を植えていただき、花いっぱいになりました。

⑤空に鯉のぼり：地域の方が5月5日に合わせて校庭いっぱい飾ってくれました。何十匹もの鯉のぼりを見て子どもたちは大喜びでした。

2 学校支援の工夫

①「地域ふれあいルーム」の設置：学校支援のために協力してくださる地域の方が集う場・休憩場を作るために、空き教室を「地域ふれあい

ルーム」にリフォームしました。

②CNをチームに：CNはそれぞれの得意分野を生かして6名で分業。各々が地域活動に携わり、地域での役割ももっています。

3 地域イベント

「柏井納涼ふれあいの夕べ」：6名のCNは様々な場面で地域にも貢献しています。「ふれあいの夕べ」では実行委員として活躍しました。PTAや学校職員も地域の一員として一緒に参加しています。

柏井小学校の地域は、「柏井を子どもたちのふるさとに！」を合言葉に子どもたちの育成を図っています。このような足元のしっかりした地域教育の延長線上に学校支援があるのです。CNの方々には地域教育と学校教育の橋渡し役を担ってくださっています。CNは来年度さらに多くの学校に配置される予定です。

【生涯学習振興課】

豊かな家庭教育のために 連載(3) 「子どもを伸ばすほめ方・叱り方」

子どもをほめることと叱ることは、家庭教育の要です。子どもは「ほめて育てる」とよく言われますが、悪いこともほめるわけではありません。「ほめて育てる」とは、できるだけ良いところを見つけてほめることであり、悪いことはきちんと叱る（教える）ことが大切です。

子どもは、ほめられることにより行動や態度がよい方向に変わり、成長につながります。時には子どもが普段して、「当たり前のこと」も取り上げてほめてください。また、「ありがとう。助かったわ」と感謝の気持ちを伝えるだけでも、子どもはほめられた、役に立てたという気持ちになり、次もほめられたい、役に立ちたいという前向きな気持ちになれるのです。次の子どもを伸ばす上手なほめ方・叱り方をぜひご参照ください。

(1) 子どもをほめるときの5つのポイント

- ①心をこめてタイミングよくほめる
- ②何かをしながらではなく、しっかりと子どもの目を見てほめる
- ③抱っこしたり、頭をなでたりして、スキンシップをとりながらほめる
- ④結果のみをほめるのではなく、プロセスや努力をほめる
- ⑤「〇〇ちゃんより上手だね」など他の子どもとは比較しない

(2) 子どもを伸ばす上手な叱り方

「なぜ、してはいけないのか」「なぜ、しなければならないのか」を伝え、理解させることが大切です。

- ①子どもと同じ目線で、子どもの目を見て、愛情を持って叱る
- ②理由をきちんと説明して叱る
- ③叱るタイミングも重要 やったあとで時間が経ち過ぎていたら、子どもはピンと来ません。やった後すぐ叱るのが効果的です。けれども、子どもにも自尊心があるので、人前で叱って恥をかかせることは避けなければなりません。
- ④子ども自身の言葉で反省させる
- ⑤叱った後のフォローも重要 叱った後は気持ちを切り替えて、普通に接するようにしてください。「お母さんが叱っているのは、あなたの行動に対してであって、あなたのすべてを叱っているのではない」ということを伝えるためにも。

【生涯学習振興課／家庭教育指導員】



平田氏が教育委員に就任

平田信江氏が教育委員に就任しました。平田委員は現在、市川市食生活改善推進員、北方小学校PTA副会長、北方小学校学校評議員として活躍されています。

教育委員就任にあたり、「元気なお母さんが元気な子どもを育てる」「元気な子どもが元気な地域をつくる」「元気な地域が元気な国を盛り上げる」「元気な国が世界をつなぐ」その原点であるお母さん代表として、委員の仕事を精一杯努めたいと抱負を述べられました。

【教育センター】

市川の教育に貢献

氏名	役職名等
高橋 邦夫	市川市立市川小学校 校長
町田 実	市川市立真間小学校 校長
川添 茂	市川市立中山小学校 校長
太田 和誠	市川市立第一中学校 校長
尾崎 明男	市川市立第四中学校 校長
高橋 薫	市川市立国府台小学校 教諭
高桑 弥須子	市川市立第七中学校 学校司書
渡邊 松夫	市川市立宮久保小学校 校長
三枝 美枝子	市川市立第一中学校 養護教諭
松上 義雄	市川市立菅野小学校 学校医
吉田 孝一	市川市立新浜小学校 他 学校医
吉田 勤	市川市立第七中学校 学校歯科医 市川市学校保健会 評議員
宮崎 孝秀	市川市立妙典中学校 他 学校薬剤師
すがの会	代表者 河西 明子

千葉県教育功労者
市川市教育功労者

（個人の部）市川市立新井小学校 校長 鈴木 郁夫
（団体の部）市川市立第二中学校



教育功労者表彰は、教育・学術または文化の振興などに功績が顕著であった個人または団体に与えられるもので、今年度は次の方々が表彰されました。

【教育政策課・教育センター】



心豊かな幼児を育むために

大洲幼稚園
公開研究会

11月20日に市川市立大洲幼稚園で公開研究会がありました。

4歳児の「ジャンケン電車」では、先頭の子がジャンケンをして負けてしまうと、後ろの子が「いいよ、大丈夫」と仲間を励ましていました。また、

勝ったり負けたりする楽しさの中で、友だちに「一緒にやろう」と声をかけながら楽しむ姿が多く見られました。

5歳児の「しっぽとり」では、相手の動きに応じて自分の動きを工夫するなど、チームのために役立ちたいと一生懸命に活動する姿が、頼もしくもあり

微笑ましくもありました。

4歳児、5歳児それぞれが、人や物と自らかかわり、日々の遊びの中で「豊かな心」を育み、「生きる力」を養ってほしいと願います。

先生方の思いが伝わってくる研究会でした。【就学支援課】



体づくりでいいこといっぱい!



ヘルシースクール講演会 福栄小学校



11月11日に福栄小学校では体づくり運動の講演及び実技指導が、順天堂大学の外畑客員教授と学生3名を講師にお迎えして行われました。

はじめに「体づくりでいいこといっぱい!」を演題として、全校児童を対象に外畑客員教授からお話がありました。

「体育の苦手な子どもたちは、調整力、その中でも巧緻性が十分に養われていない。跳び箱がうまく跳べる、逆上がりが上手にできるという運動技能のほとんどが、この巧緻性の発達によるところが大きい」とのお話があり、その後、子どもたちには映像を交えて「跳び箱はどうすれば跳べるか」をわかりやすく説明をしてくださいました。

講演の後には、1, 2, 3年生と4, 5, 6年生に分かれて、学生の方々によるマット運動等の実技指導へと続きました。

楽しい会話を交えながら、のびのびとした体づくり運動が繰り広げられ、地域の方々にはギャラリーで微笑ましく見守っていただきました。【教育センター】

こうせい

秋のお祭りで博物館をもっと身近に!

火おこし体験や昔遊び体験をぜひ!



考古・歴史博物館では、地域の秋のお祭りに火おこし体験や市川市内で出土した土器の展示解説で参加しています。

11月16日に行われた中国分小学区秋まつりでは、火打石を使った火おこしと木をこすり合わせる火おこしの2つの体験コーナーを設置しました。どちらのコーナーも大盛況で、初めて挑戦した子ども、最初は苦戦していましたが、博物館ボランティアのみなさんの指導で上手に火がおこせるようになりました。2種類の火おこしに挑戦する子は、一度成功した後に、家の人や友達を連れてきて手本を見せる子など思い思いに楽しいひと時が過ごせていたようです。



火打石を使った火おこしは、歴史博物館で実施している昔の暮らし体験学習(3年生)で、木をこすり合わせる火おこしは、考古博物館の縄文体験学習(6年生)でも行っています。

また、火おこし体験以外にも博物館では土日を中心に昔遊び体験や紋切り(折り紙を折って、型を当てて切り抜く)遊び体験なども実施しています。

申し込みは不要ですので、お気軽に体験してみてください。皆様のお越しをお待ちしております!

【考古・歴史博物館】

地域のお年寄りと... 「学習支援クラブ」第二中学校

今年度の学習支援クラブの取り組みの中で、12月4日に開催された第二中学校の「メイクハッピースマイルパーティー」を紹介します。

この行事は、人々に対する思いやりの気持ちを育むとともに、地域とのつながりや絆を深めることをねらいとし、地域のお年寄りを招いて学級ごとに企画した催し物に参加していただくものです。今年度は、全員で白百合学級の劇「ドラえもん」を鑑賞したあと、グループに分かれ「百人一首」「劇」「合唱」「クイズ」などを楽しみました。

参加してくださった方々からは、「生徒さんの生き生きとした表情が印象的でした」「また来年も楽しみにしています」という感想をいただきました。

「どんなことを企画したら地域の方々楽しんでもらえるだろう?」と学級で何度も話し合いを重ねてきた生徒たちからは「自分たちは地域のたくさんの方々に来て生活していることがわかりました。そんな方々に恩返しができるような街づくりをしたいです」「お年寄りの方にマッサージをしているときの表情を見たら、私もすごく幸せになりました」という感想がありました。

本事業は、「開かれた教育」を推進し、「子どもたちに夢や感動を与え、生きる力を育む」ことを目的としています。今後も各小・中学校や特別支援学校では、家庭・学校・地域が一体となり実情に即した、特色ある学習活動を実施してまいります。

【指導課】



地域の方々とともにハッピースマイル!



学校にオーケストラがやってきた

信篤小学校

10月28日に信篤小学校において、円光寺雅彦さんの指揮による札幌交響楽団の演奏会が行われました。

この演奏会は、文化庁の「次代を担う子どもの文化芸術体験事業」として、小・中学校等に一流の文化芸術団体や芸術家を派遣するものです。今回は、北海道唯一のプロ・オーケストラである札幌交響楽団が信篤小学校で演奏を行いました。

演奏会は、「ウィリアム・テル」序曲や「くるみ割り人形」等の名曲、日本の民謡メドレーの他、楽器の紹介、指揮や演奏の体験コーナーも行われました。

「運命」の指揮に挑戦した児童は、「緊張して足がガクガクしたけれど楽しかった」と、指揮者の円光寺さんからプレゼントされた指揮棒を手に、とても嬉しそうにしました。

演奏会の最後にはオーケストラの伴奏で信篤小学校の校歌を全員で歌いました。

演奏会終了後、6年生の児童は、「きれいな音で、聴いていて気持ちがよかった」「いろいろな楽器が見られて楽しかった。もう1回聴きたい」と笑顔で話していました。

子どもたちはオーケストラの多彩な音色とダイナミックな響きを体で感じ、美しい音楽を堪能することができました。【教育センター】



札幌交響楽団演奏会



一人一人が輝いて...

11/2 行徳文化ホールI&I (南部)
11/9 昭和学院伊藤記念ホール (北部)



～合同学習発表会～

市内の小・中学校特別支援学級の児童生徒による合同学習発表会が、南部と北部の2か所に分かれて開催されました。特別支援学級の増加を考慮し、より地域に根付いた発表会にするために、昨年度より2か所の会場での開催となっています。今年度、北部の発表会は、使用できなくなった市民会館のホールの代わりに、昭和学院伊藤記念ホールをお借りして実施することができました。南部・北部どちらの発表会も、子どもたち一人一人が個性を

性を生かして劇や合唱などを披露しました。「書道パフォーマンス」と題して、曲に合わせて学級の生徒全員で1枚の大きな書道作品を書き上げる中学校もあり、各学校での日々の学習の様子が感じられる工夫された発表会となりました。また、中学校の特別支援学級で製作した作業製品の頒布会では、たくさんの方が製品の出来映えに感心し、購入してくださいました。これからも、この合同学習発表会が地域の方々に、特別支援教育の

取り組みや、特別支援学級の子どもたちの様子について知っていただく場となり、広く地域の方々に親しまれる行事となることを願っています。

【指導課】



～本格的なホールでの演奏体験～

がんばってます!
市川っ子!

個性あふれる作品の数々

市川市こども作品展・新聞展

11月7日・8日に「第68回 市川市児童生徒音楽会」が、市川市文化会館にて開催されました。市内の小・中・特別支援学校56校から4,647人の児童・生徒が参加し、日頃の練習の成果を発表し合いました。今年度は、2,500人を超える方々が来場し子どもたちの熱演に耳を傾けていただきました。「素晴らしい歌声を聴くことができ、幸せな気持ちになりました」「演奏に感動しました。子どもたちの成長を感じました」など、子どもたちの励みとなるような感想を多くいただきました。

児童生徒音楽会

また、今年からは公益財団法人市川市文化振興財団のご協力により招待演奏を行いました。今回は、高橋ドレミさんによるピアノ演奏で、「トロイメライ」など、子どもたちにもなじみのある曲を演奏していただきました。演奏がはじまると会場中が静寂に包まれ、集中して聴いている子どもたちの姿がとても印象的でした。

近年、日々の授業での取り組みを学年合唱やクラス合唱として発表する学校が多くなり、音楽系部活動に参加している児童生徒以外にも、多くの子どもたちが本格的なホールでの演奏を体験しています。この体験をとおして、さらに音楽を愛する子どもたちが育っていくことを願っています。

【指導課】



11月7日～10日の4日間、市川市文化会館において平成25年度市川市こども作品展・新聞展が開催されました。

出品された市内の公立幼稚園、小・中・特別支援学校に在籍している子ども達の作品総数は、昨年度を100点近く上回る2,503点、来場者数は10,057人で、最終日には終了時刻直前まで家族連れの方々がひっきりなしに訪れていました。



今年度は、中学校の書写の作品が多く出品され、市民の方が作品の前で足を止め、長い時間をかけてご覧になっていました。また、LEDを使用した作品や、廃材をもとにダイナミックに表現した作品、タンブラーのデザインをした作品など創意工夫された作品も数多く見られました。

来場された方々からは「幼稚園の作品は幼稚園の子らしい絵で、中学生はさすが中学生だなあという作品でした(小学生)」「このような機会があると子どもの自信につながります。保護者は子どもの可能性に気づかされ嬉しいです(保護者)」等、感想を多数いただきました。皆様の貴重なご意見ご感想をもとに、来年度も素晴らしい作品展にしたいと考えております。

【指導課】

「生きがいを感じ、共に喜び、励ましあえる学校・社会をめざして」



市川市特別支援教育振興大会が、11月22日に市川市文化会館大ホールで開催されました。この大会は隔年で実施され、今年で21回目となります。今回は市川市が千葉県特別支援教育振興大会の開催地区となり、併せて開催されました。

当日は、県内各地から700人を超える参加者を迎え、大盛況のうちに開催することができました。

内容としては「大会宣言」のほか、市川市立第八中学校のぞみ学級の生徒の皆さんによる、ダンス「チャチャチャ」と合唱「花は咲く」、千葉県立特別支援学校市川大野高等学園2年生の皆さんによる、踊り「こいやこいや」の発表、NHK大河ドラマ「平清盛」の題字を手がけたことでも有名な書家金沢翔子さん、同じく書家で翔子さんの母親である金沢泰子さんによる、「ダウン症の子どもを育てて学んだこと」の記念講演が行われ、参加者から多くの感動の声を聞くことができました。

【指導課】



千葉県特別支援教育振興大会

歴史資料の大切さを学んだ職場体験



考古・歴史博物館では、市内の中学生の職場体験を受け入れています。博物館での職場体験は、様々な仕事に対する理解を深め、歴史資料の大切さを知ってもらうことを目的としています。

具体的な内容は、次のようになっています。

- ①小学校団体利用の手伝い
- ②展示室見学
- ③収蔵庫などの館内見学
- ④資料作成補助
- ⑤館内外や資料の清掃
- ⑥学芸員へのインタビュー
- ⑦まとめレポート作成

生徒のみなさんは、普段は入ることのできない収蔵庫に置かれている沢山の資料にとっても驚きます。そして、資料の種類によって保存場所が異なる点や、保存の仕方が異なる点についても学びます。



刷毛を使って丁寧に

また、刷毛を使い資料を一つ一つ丁寧に掃除する資料清掃では、資料の取り扱いの大切さも感じることができたようです。今年度は、戦前の絵日記を中心に清掃を行い、ほこりを払うことで絵や字が鮮明になりました。

これらの資料を大切に保存し、後世に残していく博物館の仕事に興味をもってもらえたら嬉しいです。

【考古・歴史博物館】

インフルエンザが流行する季節です



インフルエンザウイルスは、毎年流行を繰り返すごとに、型が変化することがあります。特にA型・B型は多くの型があり、世界的な大流行を引き起こします。

*主な症状

急な発熱(高熱)、寒気、筋肉痛、強い倦怠感、のどの痛み、咳、鼻水など

*感染経路

①飛沫感染・空気感染

感染した人が咳をすることで飛んだ飛沫に含まれるウイルスを、別の人が口や鼻から吸い込んで感染します。

②接触感染

感染した人が咳を手で押さえた後や、鼻水を手で拭いた後に触れた場所に、ウイルスを含んだ飛沫が付着することがあります。その場所に別の人が手で触れ、その手で鼻、口に触れることにより、粘膜等を通じてウイルスが体内に入り感染します。

*ウイルスの特徴

温度が低く、乾燥した場所を好みます。

*予防方法

感染経路を断つことが大事です。

①手洗いとうがいをしましょう。

手洗いは石鹸を使い、指と指の間や爪、親指の先など十分に洗いましょう。

うがいは、のどを潤し、ウイルスが粘膜に付くのを防ぎます。

②マスクをしましょう。

③栄養と休養を十分にとりましょう。

体力をつけ、抵抗力を高めることで感染しにくくなります。

④人ごみを避けましょう。

⑤部屋の換気をこまめにしましょう。

加湿器や洗濯の室内干しなどで、室内の湿度を60~70%に保つようにしましょう。

⑦インフルエンザワクチンを接種することも有効です。

*インフルエンザかもしれないと思ったら

すぐに医療機関を受診し、適切な治療を受けましょう。

*もし家族がインフルエンザにかかったら

①なるべくインフルエンザにかかった方と生活する部屋を分けましょう。

②看護する人も、インフルエンザにかかった方もマスクをしましょう。

インフルエンザと診断されたら

①医師の指示に従い、園・学校は休み、栄養と睡眠を十分にとりましょう。

②水分補給を十分に行いましょう。

③処方薬は、医師の指示を守りましょう。

④園・学校への連絡をお願いします。



○出席停止期間

発症したあと5日を経過し、かつ、解熱した後2日間(幼児は3日間)は出席停止になります。

○治療証明書

インフルエンザに関しては、園・学校に治療証明書の提出は不要です。

【保健体育課】

汗の結晶 大きな収穫の喜び

～ 市川米っ人くらぶ ～



きな粉餅を作る子どもたち

市川米っ人くらぶの収穫感謝祭が11月9日少年自然の家で盛大に開催されました。

当日は約150名もの参加者が集まり、収穫したお米を炊飯してお雑煮やカレーライスなどを作り、皆でこれまでの労をねぎらいながら、収穫の喜びを分かち合いました。自分たちが育てたお米の味は格別のように、作られた料理は次々に完食となりました。

「米っ人くらぶ」は、市内の子どもと保護者を対象に行われている稲作体験事業の通称です。自然や人とふれあい、勤労と収穫の喜びを体験することにより、親子の情愛を深め、心豊かな子どもたちを育てていくことを目的に平成13年からスタートした事業です。田植えや稲刈りだけでなく、代掻きや案山子作り、おだ作りなど、稲作に関する様々な作業を体験できるのが特徴です。

活動期間は、4月～9月の半年間で、毎月2回程度、土曜日の午前中に作業をしています。来年度の参加者募集については、2月に市の広報で行います。

【生涯学習振興課】



皆勤賞で表彰される家族

おめでとう 141名の受講生!

はばたけ! 未来の青少年リーダーへ

『地域の青少年リーダーの育成、子どもの健全育成』を目的とし、市川市教育委員会と市川市子ども会育成会連絡協議会で開催している3つの講習会に、本年度総勢141名の受講生が参加し、11月に閉講しました。

「わんぱくセミナーは」、小学5・6年生を対象とし、遊びや野外活動を中心に集団行動・生活の基本を身につける初級講座、「ジュニアリーダー講習会」は、中学生を対象とし、グループワーク・野外活動を中心にリーダーシップを向上させる中級講座、「ヤングカルチャースクール」は、高校生を対象とし、小・中学生と共に活動する中で、青少年リーダーとしての心構えや責任感といった心を育て、さらに指導技術も磨いていく上級講座です。

この一年を振り返ると、最初はどこかよそよそしい雰囲気でのスタートでしたが、夏のキャンプなど、1年間のいろいろな活動で共に過ごす中で、みんな良き仲間となりました。受講生の感想からは、「とても思い出になりました。この思い出は絶対忘れたくないです。わんぱくセミナーで覚えたことをこれからの学校生活に繋げていきたいです」「自分1人でやろうとしないで、グループ全員で力を合わせる事が大事だなと思いました」「失敗しても次回に繋げていけるという点では、自分に大きな経験を与えてくれたと思います」など、成長が感じられるコメントがたくさんありました。魅力のある体験を通して、受講生が自分自身で感じ、考え、学び、成長できるような講習会をこれからも実施していきます。

【青少年育成課】



1年間の思い出を発表(わんぱくセミナー)



ジュニアリーダー講習会 ヤングカルチャースクールの受講生

～ 子どもにかかわる相談は、ここでできます ～

・少年相談(少年センター) 対象:小学1年生～20歳未満
家庭生活、交友や健康など様々な悩みの相談
TEL320-3340 月～金(9:00～17:00 ※木のみ19:00)

・教育相談(教育センター) 対象:3歳～中学3年生
子育てや教育に関する様々な悩みについての面接相談
TEL320-3336 火～土(9:00～17:00)

・ほっとホッと訪問相談(教育センター) 対象:小学1年生～中学3年生
主に不登校についての電話・訪問相談
TEL320-3362 火～金(12:30～17:00)

